

名古屋大学高等教育研究センター第162回招聘セミナー

第10回「アドミッション担当教職員支援セミナー」

名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属高大接続研究センター「レクチャーシリーズ」公開研究会

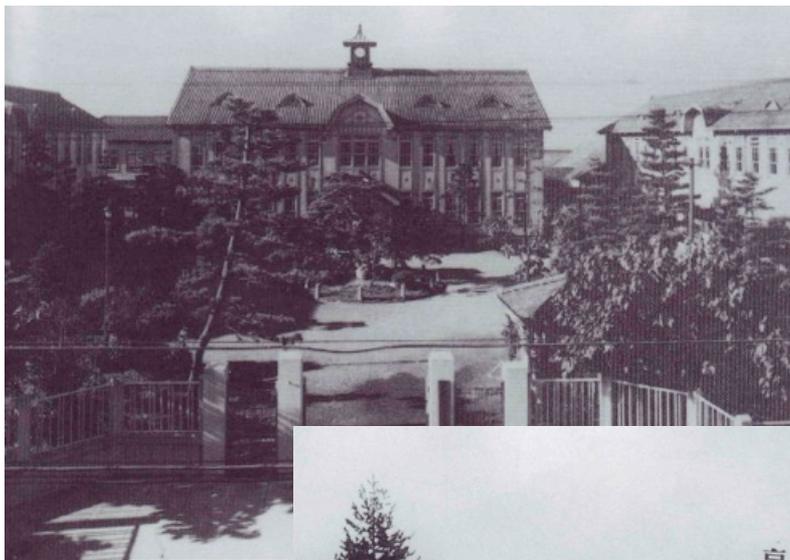
高大トランジションの達成を目指した 入試の設計と開発 ーダビンチ入試の場合ー

京都工芸繊維大学

山本 以和子



KYOTO
INSTITUTE OF
TECHNOLOGY



繊維学部



工芸学部

- 1899(明治32)年 京都蚕業講習所(農商務省所管)
- 1914(大正 3)年 京都高等蚕業学校
- 1931(昭和 6)年 京都高等蚕糸学校
- 1944(昭和19)年 京都繊維専門学校

- 1902(明治35)年 京都高等工芸学校(左京区吉田)
- 1930(昭和 5)年 左京区松ヶ崎移転
- 1944(昭和19)年 京都工業専門学校

1949年京都工芸繊維大学

2006年 工芸科学部 設置(繊維学部と工芸学部の統合)

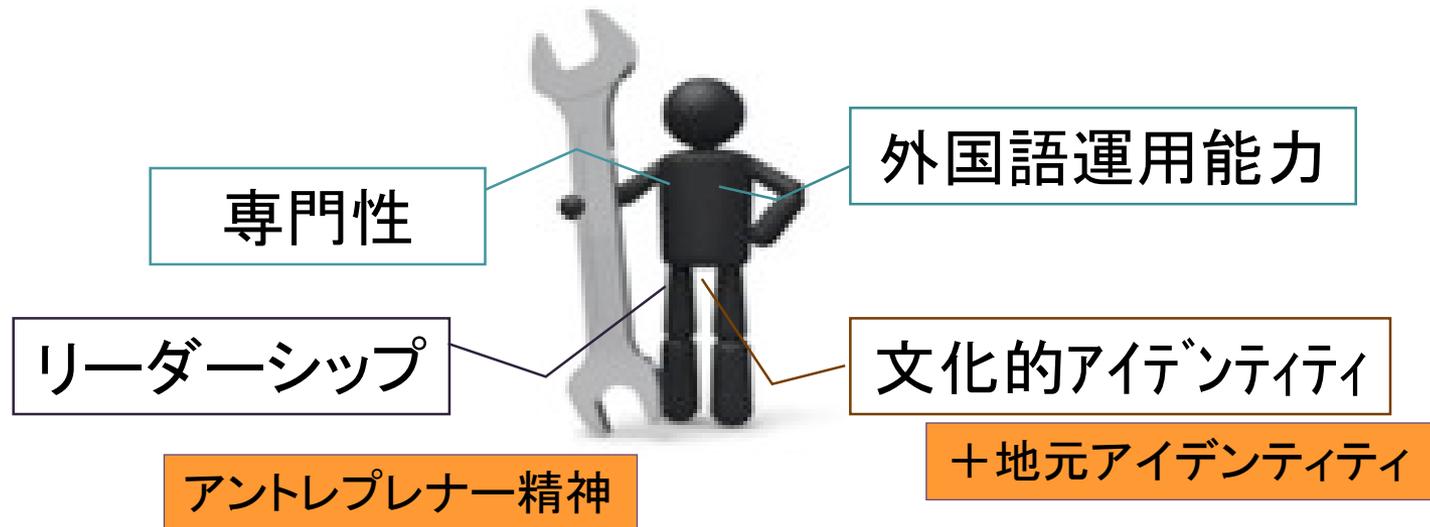
学部・大学院組織図

平成30年度



養成する人材像: TECH LEADER

★専門分野の知識・技能を基盤として、グローバルな現場でリーダーシップを発揮してプロジェクトを成功に導くことができる人材

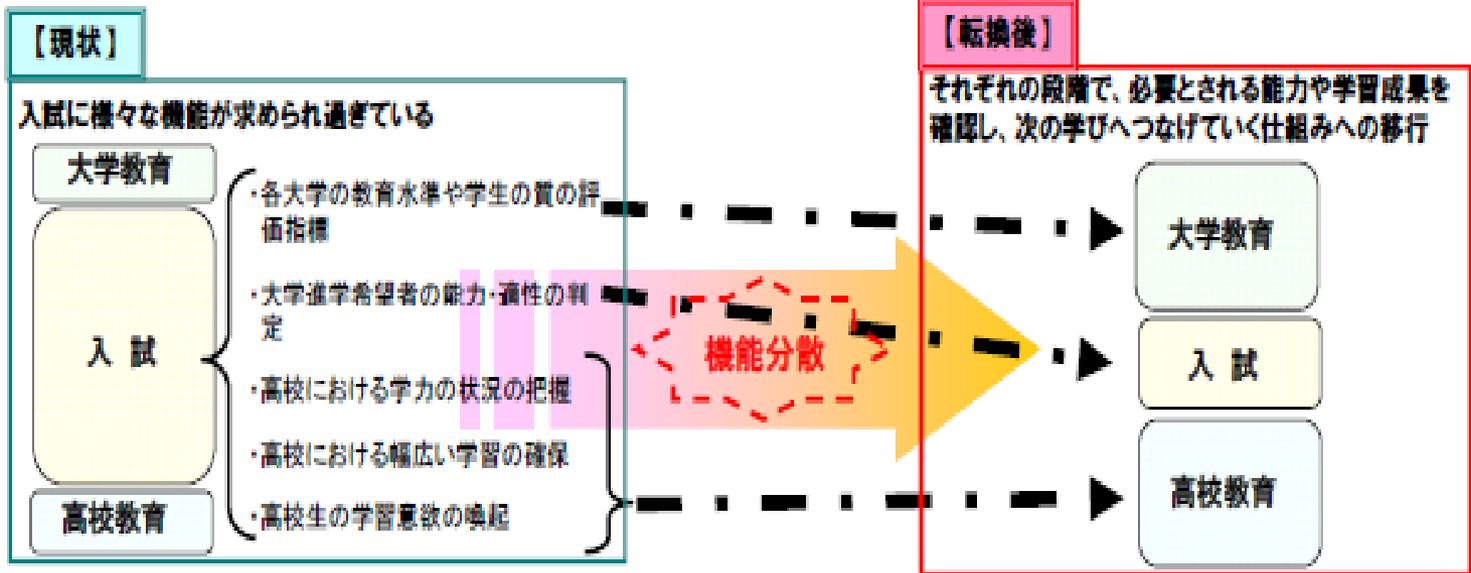


学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

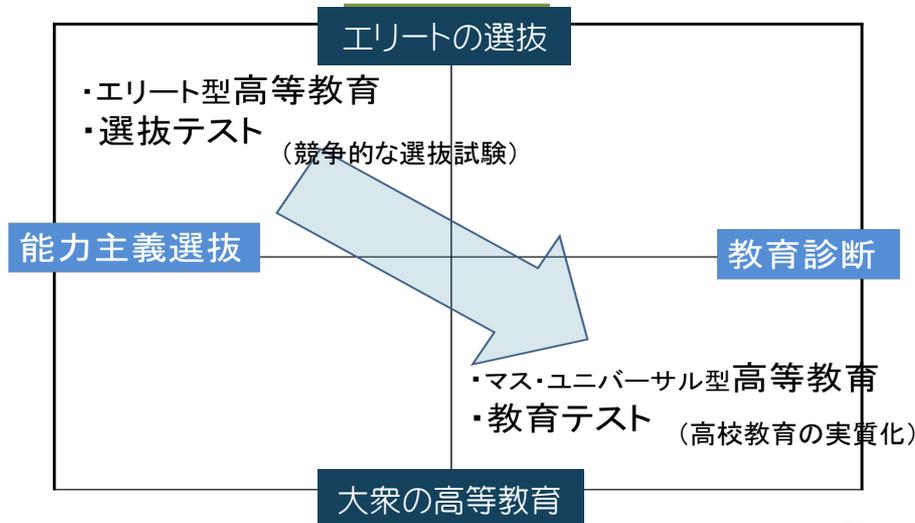
本学工芸科学部では、以下に掲げる「工織コンピテンシー」(本学卒業生として有すべき能力)および各課程のディプロマ・ポリシーに則った知識と能力、実践力、グローバルな視野とリーダーシップを備えた学生を、国際的に活躍できる理工科系高度専門技術者(TECH LEADER)となりうる人材と認め、「学士(工学)」(応用生物学課程においては「学士(農学)」)の学位を授与します。なお、卒業認定を受けようとする学生は、本学通則および工芸科学部履修規則に定められた修業年数以上在学し、卒業要件となる単位を修得していなければなりません。

現状入試の課題

■入試の機能



2012.9.28 高大接続部会 学士課程答申高大接続部分p12



荒井克弘 (2014)



現状入試の課題

中央教育審議会答申より

多面的・総合的な判定入試とは？

高等学校や大学の教育の一体的な改革を進めるためには、大学入学者選抜は各学校段階を通じた**これからの時代に求められる能力等**の育成が促進されるよう、大学入学志願者の**能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価**するものへと転換を図ることが必要

◆ 中教審が課題とした入試のキーワード ◆

大学進学者の多様化 選抜機能の低下

高校生・大学生の学習時間の減少や学習意欲の低下

AO入試等における不十分な学力把握 1点刻みによる学力検査への偏重

大学入試センター試験の肥大化と実施体制面での課題

中央教育審議会「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について～全ての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために～(答申)」(平成26年12月22日)より



現状入試の課題

現在の入試では、なぜ高大接続ができていないのか？

1. 進学適性検査

- ・高等学校段階の能力、スキル、大学教育で成果達成する適性
- ・大学が設定する基準

2. 能研テスト

- ・能力主義教育政策の一環 → 教科学力検査の導入
→、本人の全国順位、大学・学部別・科目別得点分布表

3. 全国一斉共通一次試験

- ・高等学校における基礎的、一般的達成度を測定
- ・大学独自試験が軽減され、教科学力以外の検査(小論文や面接)を導入
- ・選抜方法の多様化

4. 大学入試センター試験

- ・基礎的な学習の達成度を測定
- ・選抜方法の多様化(アラカルト方式) → 尺度の多様化・個性化

5. 私立大学入試改革

- ・選抜方法の多様化
- ・受験機会の多数化
- ・少数科目OR無試験化
- ・大学進学希望者の増加(学習歴多様化)



■ 接続のモデル

第1モデル:::大学入学者選抜

第2モデル:::ADVANCED PLACEMENT

(カリフォルニア州 高校に大学が来て、先に単位をあげる)

第3モデル:::コミュニティカレッジ型

(大学準備段階を設け、そこで接続課程まで実施する)

第4モデル:::コロンビア大モデル

博士の学位資格をまず設定し、段階別到達点を導く。

初年次学年の接続は、この博士の学位資格から

逆算した段階別到達点がアドミッションポリシーとなる。



高校教育から、大学教育への移行に着眼する接続のモデル

学びをどう
接続するのか

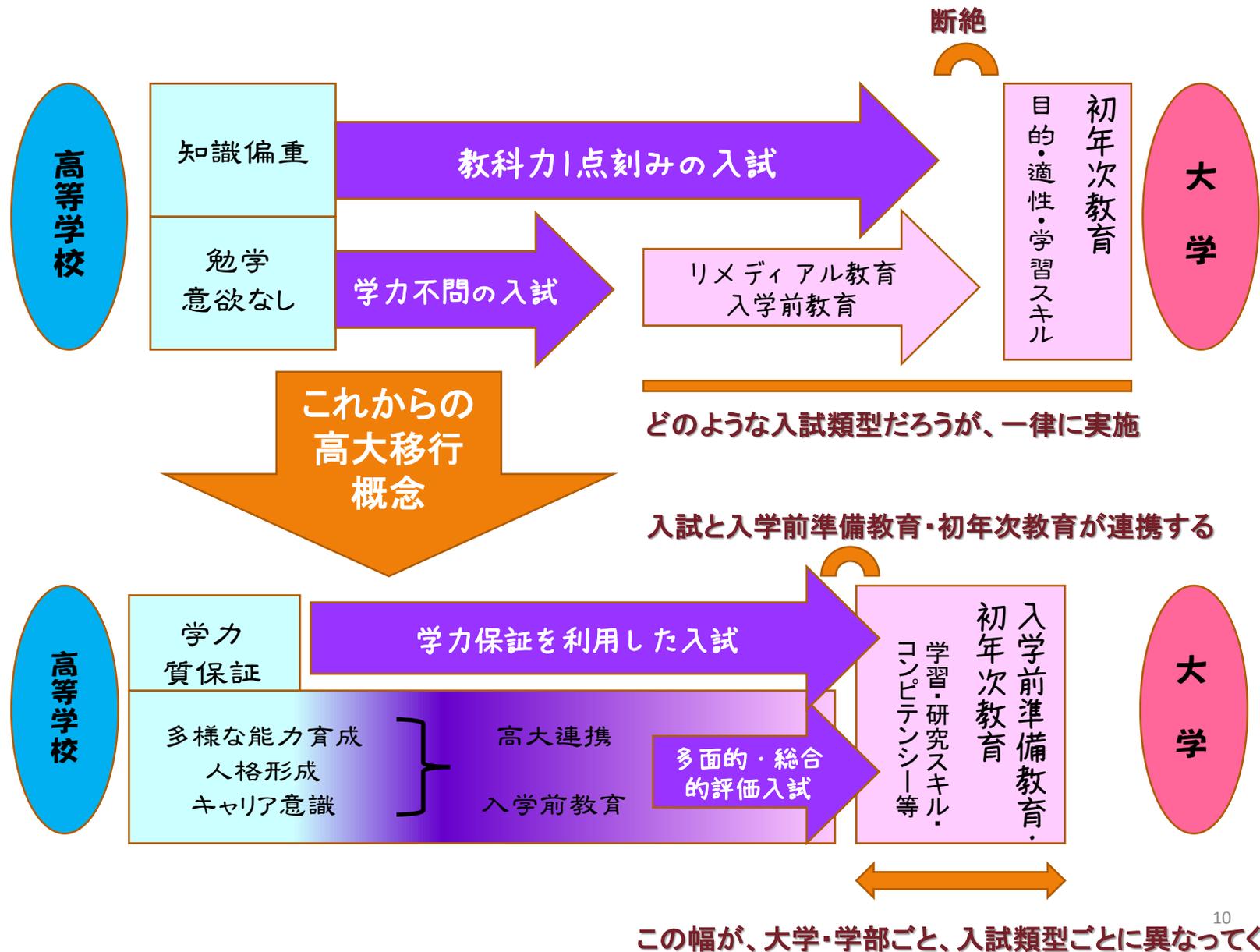
- 教科学力
- その他の必要な力とスキル

レディネス(構え)
を
どう形成するか

- 大学進学準備ができている状態
- 大学教育への移行ができる状態

スムーズな高大移行

高大接続の課題





■大学進学レディネスから見た関係

学力の三要素

学力Ⅰ 「基礎的・基本的な知識・技能」

学力Ⅱ 「基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決する力(思考力・判断力・表現力)」

学力Ⅲ 「主体的に学習に取り組む意欲・態度」



入試で、見ているか？

受験のときだけでなく、今後もこれらの要素が成長し、
成果が期待できるかどうかをどのように見るのか？



高大接続の課題

◆高校生から大学生になるために必要だった入試の基準とその変容

大学の立場からの能力主義的教科学力選抜制度の時代(大学基準の選抜)

:1期校・2期校時代(1969-1978)



入学者選抜によって高校生→大学生になる時代(制度的接続)

:共通一次試験時代(1979-1989)



「大学が選抜」→「志願者・高校が選択」へ。マッチングの時代 :センター試験時代(1990-)



リメディアル教育・初年次教育の導入と拡大



高校卒業の質保証
(受験生像の育成)

大学進学 of 質保証
(大学生像の育成)



高大移行機能の概念構造

高大移行

=TRANSITION (移行・転移・変化)
≠ARTICULATION

機能するように繋げ、新たなステージで定着できるように
変化させる

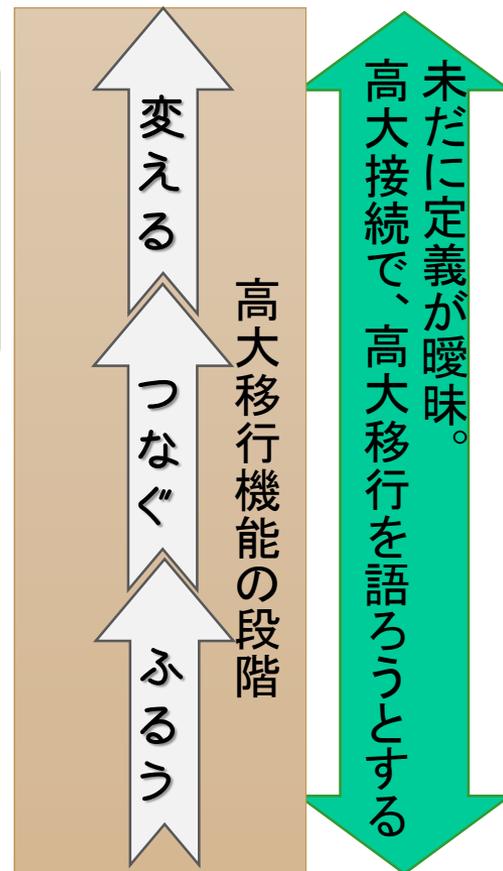
高大接続

=ARTICULATION (異質なものの接合)
≠CONNECTION

ふるいにかける→接ぐための機能

高大連携

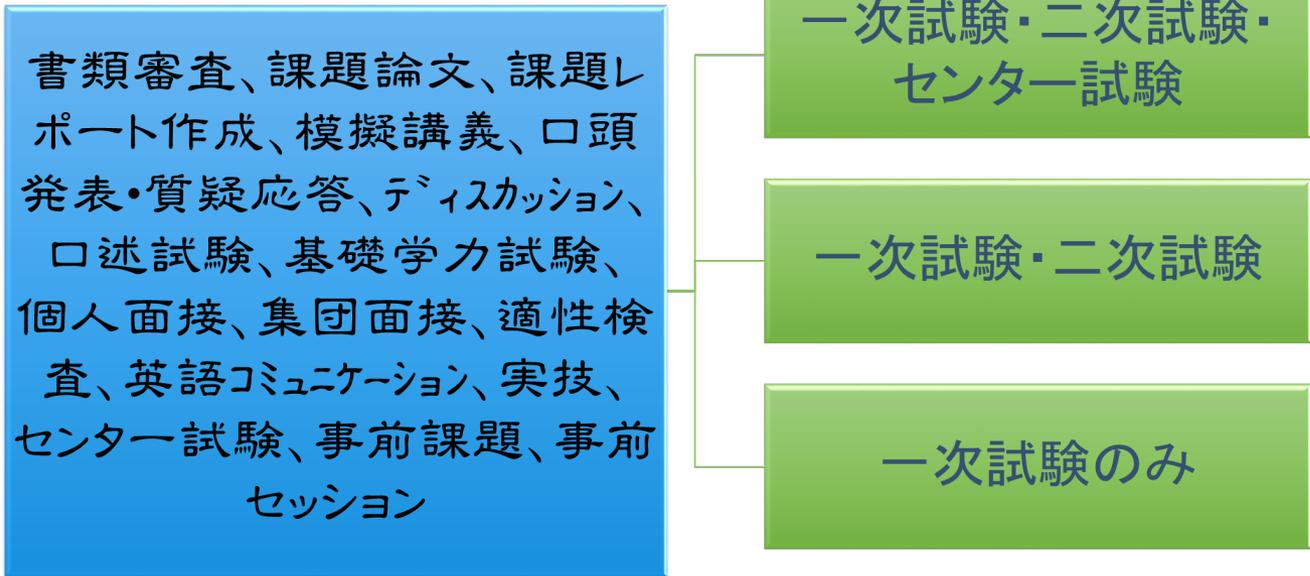
=COLLABORATION (協力・協働・協業)





AO入試の現状

国公立大学 ➡ 選抜型……当初は、書類審査を重視（学力・知識・技能を推測判定）
 現在は、書類審査+αで、判定



私立大学 ➡

- ①事前対話型
- ②体験授業・入学セミナー参加型
- ③2段階選抜型
- ④試験型
- ⑤リメディアル教育と一体化した接続・育成型



AO入試の現状

◆ダビンチ入試を受けた感想→大学を目指そうという意欲がわく教育的入試

ダビンチ入試を受験生はどのように受け止めているか (合格者アンケートより)

→「ダビンチ入試合格者アンケート」よりダビンチ入試はどのような入試だと思ったか？の回答

- ①通常の一般入試との違い
- ②向学心の醸成
- ③受験で成長

不合格者たちは…？

Ans. 「大学進学意欲が増した」

- ・ダビンチ入試での経験からこの大学に進学したいと強く思えるようになった
- ・試験を受けてみて、将来と大学での学びが繋がって必ずこの大学に合格したいと思った
- ・AOの準備を通して自分をじっくり見つめることができたのも一般入試を乗り越える原動力になった

◆ダビンチ入試受験者の一般入試再受験率

第1次選考不合格者の一般入試再受験率 40%

最終選考不合格者の一般入試受験率 42%

AO入試の現状

2. 現在のAO入試は、どこまで高大移行を達成しているのか？
(機能段階においてどこに位置するのか？)



- ① 一般入試の課題以外にAO入試が出現するに至った理由はなにか？
- ② AO入試はどのような内容で行われ、成果は何だったのか？

結論

- ①(理由)→学習歴の多様化・学習力の低下・自己理解と主体性の低下
- ②(内容)→教科学力以外の側面での判定

評価項目は、一面もしくは二面で総合的とはいえない。
接続・育成型・・・そもそも高校水準に到達していないリメディアル教育

(成果)→アドミッションポリシー策定、入学前教育・初年次教育(リメディアル教育)の出現・・・教育担当部署は、入試と別。「変える」の認識ではない



よって、「つなぐ」に位置すると考えられる。
(ただし、「ふるう」に近い「つなぐ」である。)





AO入試の現状

導入後のAO入試課題はなにか？

手法→ ①：AO入試導入後の大学におけるAO入試実施再考の動向や露呈されたAO入試合格生の状況に着目して、導入後のAO入試の課題を整理する

動向・状況 1. AO入試合格生の学力問題事象について

→一橋大学(商)、九州大学(法)、筑波大学(国際総合)、鳥取大学(工)など
学力確保、他の入試類型での合格者と大差がない理由でAO入試廃止
AO入試合格者の高校時代の学習時間の少なさ
大学入学後の成績の低さ

動向・状況 2. 選抜基準について

→アドミッションポリシーが抽象的でわかりにくい。選考基準が曖昧

動向・状況 3. AO入試スケジュールについて

→早期合格者の学習モチベーションの低下
→選抜型は、秋移行の実施が多いため、AO入試対策と一般入試対策の二重の負担がある。またAO入試不合格後のケアも難しい。→AO入試を敬遠する高校が発生



京都工芸繊維大学
ダビンチ(AO)入試
資質・能力・意欲+基礎学力の総合評価

ダビンチ入試の詳細はこちら

<https://www.kit.ac.jp/ao/>



京都工芸繊維大学の入試構造

多面的・総合的な判定の入試でキャンパスを豊かにする

一般プログラム

地域創生
Tech Program

教科学力だけでなく、総合的な学力や潜在能力(学業遂行能力)を判定する

ダビンチ入試

専攻分野の学習パフォーマンスや適性
一般選考

+英語運用能力を判定する
グローバル選考

特定の地域から受験可能な
地域選考

誰でも受験できる
一般選考

社会人が受験できる
社会人選考

高等学校教科学力を判定する
一般入試(前期日程・後期日程)



ダビンチ入試の特徴

センター
試験
免除

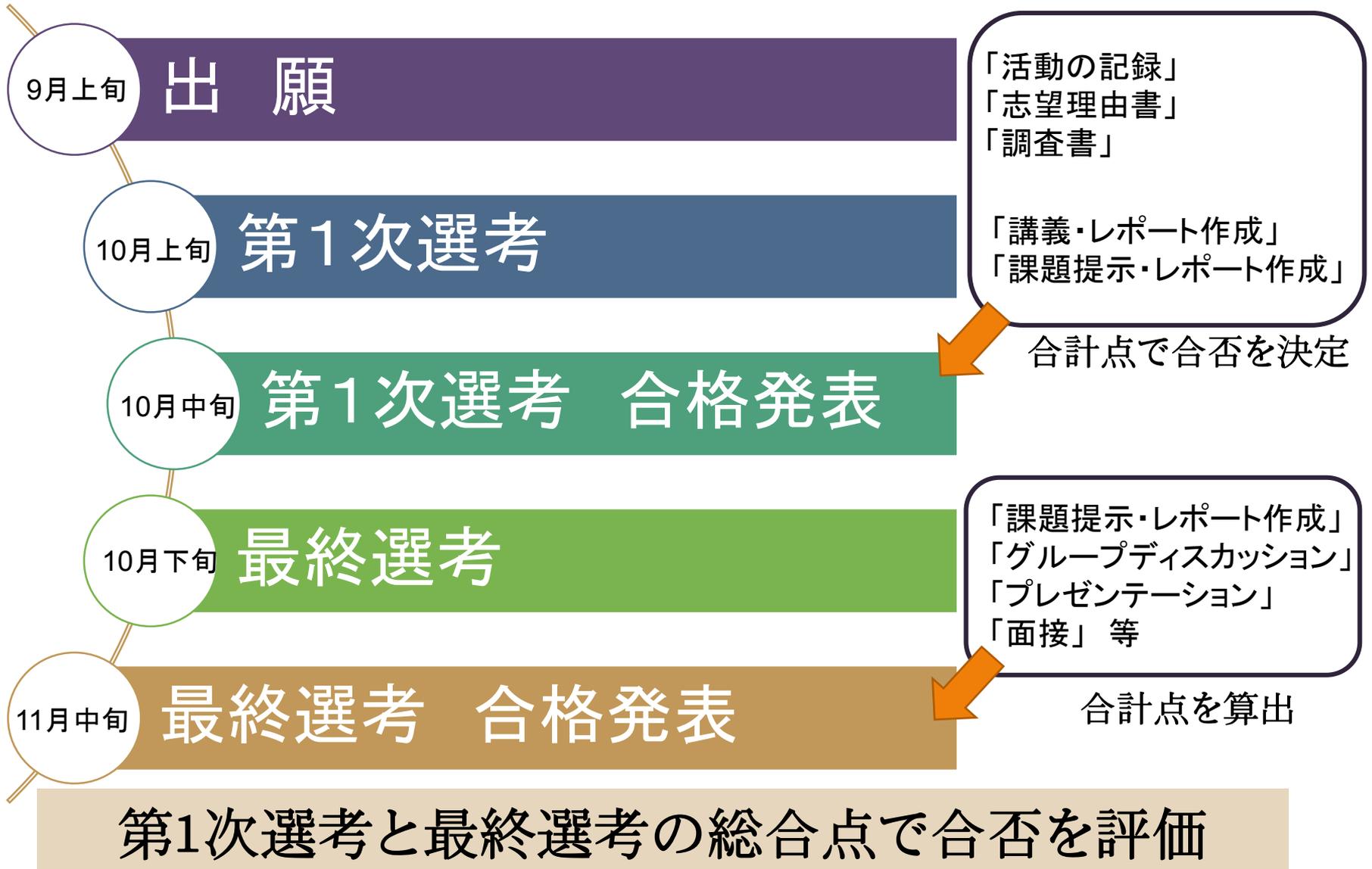
個別学力
試験
免除

丁寧かつ
総合的・
多面的な
選抜

高大トランジション
カレッジ・
レディネス
プログラム



ダビンチ入試の選考方法とスケジュール



ダビンチ入試の資質・能力の評価

◇◇ AO入試の判定についての誤解

- ・スペック（資格や受賞等）保持者は評価が高い
- ・学校の中より学校外活動が評価される
- ・SSH指定や理数科が有利
- ・テストの点数（教科学力）より意欲



◇◇ ダビンチ入試での実際

- ・スペックよりストーリー（自己分析と学習計画,主体性）
- ・学校生活で頭角を現した生徒
（与えられた環境での努力と工夫, 成長姿勢の保持）
- ・入試に動機付けられた学力ではなく真の学力を測定
- ・大学進学レディネス（知識・スキル・適性・人間性・潜在能力）

「大学での学業遂行能力や学業遂行の構えができているのか？」

= 日々の学校できちんと成果を上げていれば、

大学でも学習成果が出る



ダビンチ入試の資質・能力の評価



活動の記録と志望理由書の評価視点

1. 「活動の記録」と「志望理由書」がつながっていない
2. 目的・動機・プロセス(分析的・創造性等)・学んだこと(分析と展望等)

自己分析不足(なにができて、何ができていないのか?)

3. 「選ばれる」のではなく、「学びに行く」姿勢
4. なぜ京都工芸繊維大学なのか
5. 志望課程の混同
(ex.情報工学課程と電子システム工学課程や、
電子システム工学課程と機械工学課程 の混同)

■ 活動の記録→志望理由書のストーリー



ダビンチ入試の資質・能力の評価

◆学業遂行能力につながるテスト開発

第一次スクーリング：学域別

大学での学業遂行能力を見る＝体験入学型の試験

午前 講義→レポート作成



高校まで学んだ知識の中に
新たな知識を組み入れる



講義でメモを取った資料を
持込み、それを基にレポート
を作成する。

午後 課題→レポート作成

目的意識・意欲・必要な能力・
適性等を見る。

講義・レポート作成の講義テーマ

「ヘモグロビンとミオグロビン」 -酸素と結合するタンパク質-

講義資料:計27枚

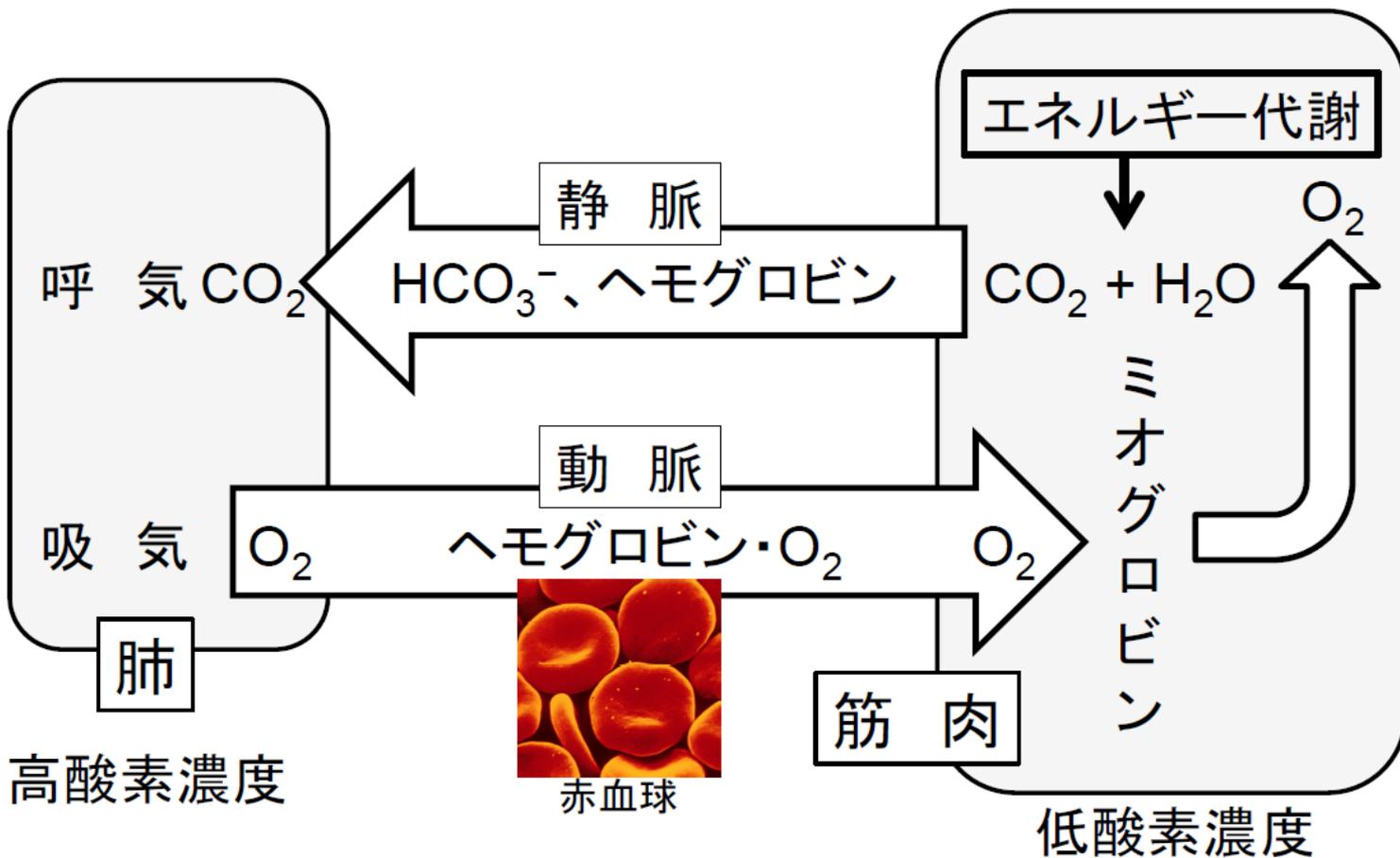
平成27年度 ダビンチ入試より

タンパク質とは



- ◇ この試料は試験に持ち込むことができます。
- ◇ 講義中、この用紙にメモをとることは自由です。
(メモは採点の対象になりません)

ヘモグロビンとミオグロビンの働き



問1

問1. 以下の文章を読んで、設問（ア）～（ウ）に答えなさい。

（配点率 20%）

タンパク質はたくさんのアミノ酸が[A]結合でつながってできている。タンパク質中に含まれているアミノ酸は全部で[B]種類あり、それらがつながる数や並ぶ順序の違いによって、多くの組み合わせが可能である。その結果、①多種多様な立体構造と機能をもつタンパク質をつくることができる。

アミノ酸の中央にある炭素原子には、水素原子、塩基性基である[C]、酸性基の[D]のほかに、側鎖と呼ばれる置換基 R が結合している。この側鎖によって、アミノ酸の化学的な性質が決まる。中央の炭素原子は、[E]以外のアミノ酸では不斉炭素原子なので、[F]異性体が存在する。また、側鎖にも不斉炭素原子があるアミノ酸として、[G]と[H]がある。

側鎖の化学的性質を疎水性と親水性で分類すると、[I]などは疎水性の側鎖を、[J]などは電荷のない親水性の側鎖を持っている。一方、pH が中性付近の水溶液中では、[K]や[L]などの側鎖は正電荷をもっているのに対して、[M]と[N]の側鎖は負電荷をもっている。

②水溶液中のアミノ酸は、陽イオン、双性イオン、陰イオンが平衡状態にあり、講義資料-6 や-7 に示すように pH が変化するとその組成が変わる。

問1

基礎知識

講義理解力

- (ア) **A** ~ **N**に適切な語句やアミノ酸の名称を記入しなさい。ただし、該当するアミノ酸が複数ある場合は、その中から一つ名称を記入しなさい。
- (イ) 下線部①に関して、グリシン1分子とアラニン2分子、合計三つのアミノ酸がつながってできる3種類のペプチドを「講義資料-9」にならって構造式で示しなさい。
- (ウ) 下線部②に関して、強酸性、中性、強塩基性水溶液中で、アスパラギン酸はどのようにイオン化しているか。構造式で示しなさい。

問3・問4

活用力

論述力

問3. ヘモグロビンの酸素解離曲線がシグモイド型をしている理由をアロステリック効果の逐次モデルで説明しなさい。ただし、イラストは使わずに文章だけで説明しなさい。その際、「講義資料-23」の図にある(1)～(5)を説明に引用してもよろしい。

(配点率 20%)

問4. ボーア効果とは何かを説明しなさい。また、ボーア効果が恒常性の維持に役立っている理由を説明しなさい。ただし、イラストは使わずに文章だけで説明しなさい。

(配点率 20%)

課題・レポート作成 平成28年度 ダビンチ入試より

次の文章を読み、問1～問3に答えなさい。

私は、人間社会のコミュニケーションの変容が、社会に危機をもたらしていると思います。それは、人間のようなコミュニケーション能力を持たないサルや類人猿を見ると、人間がどちらに向かっているのかがよく分かるからです。人間社会は高度な方向に向かっているのではなく、サルの社会に戻っているのではないか。そのことを話します。

私は、アフリカの熱帯雨林の中でゴリラを研究してきました。ゴリラはチンパンジーやオランウータンと同じく類人猿のグループに属しています。類人猿はサルと同じ仲間と思われがちですが、両者の違いは類人猿と人間の差よりも大きい。

サルの社会では、力の強いサルが食べ物を独占します。しかしゴリラの社会では、体の大きな雄ゴリラは小さな子供ゴリラに食べ物を譲ってあげます。また、対面する場面でも違いがあります。サル社会では力の弱いサルが強いサルと対面した時、笑ったような表情を浮かべたり、相手の顔を見ずに視線をそらしたりします。しかし、ゴリラなど類人猿では、互いに顔を間近に近づけて対面することが頻繁に起きます。

人間はどうでしょうか。人間の目には、白目が見えます。サルや類人猿には見えません。人間同士が対面した際には、白目があることによって相手の目のわずかな動きをとらえ、自分にどんな気持ちを抱いているのかを察知しています。

人間が言葉を持ったのは、十数万年前～数万年前とされています。一方、人間が今の脳の容量に達したのは60万年前。言葉よりずいぶん前です。60万年前に、人間の集団は150人ぐらいにまで膨らんでいたと考えられています。その規模までが、人間の脳の容量からみて、コミュニケーションが可能な集団の規模だということになります。

150人規模までの集団の中で、基礎となるのは10～15人の集団です。毎日、顔を合わせ、何気ないあいさつを交わすだけで心を通わせられる集団です。その単位が、家族

中略

人間の社会では、家族と共同体の論理は違います。家族は、自分の子供が他の子供よりかわいいという「えこひいき」の論理です。一方、共同体では互いに平等につきあうことを大切にします。本来なら論理の違う二つの集団を同時に成り立たせることが、人間の能力を高めることにつながりました。

私は今、家族が崩壊し始めていると思います。人間は共感能力や同情の心など、生物学的な能力に基づいたコミュニケーションを発達させてきました。にもかかわらず、今、それをはるかに超えるIT革命によって、コミュニケーションの領域を広げています。しかし、人間はまだそれに適応できていない。また、「自己」が重視される風潮もあります。自己実現、自己責任、自分の利益が重視されています。

一方で、共同で子育てをする機会が減っています。子育ては母親が主に担うようになった。そして、食事は重要なコミュニケーションだったのに、個食になってきています。

この家族の崩壊は、人間性の喪失にもつながります。家族が崩壊すると、共同体だけが残し、自分の利益の実現を優先し、自分と他人の間に優劣をつける集団になります。その時には、規則だけが必要で、相手の気持ちをおもひかえる必要がなくなります。サルの社会がそうです。その結果として、信頼関係は消失するようになります。効率を重視すれば、利益のみを追求する共同体となり、サルと同じようにその集団をいったん離れば、その集団にアイデンティティを持たないですみます。

果たして、それで人間はいいのでしょうか。私は最近、そんな不安を抱えています。

出典：山極寿一 2014（平成26）年11月10日毎日新聞 「毎日21世紀フォーラム・第136回例会」より

＜教育接続を目指した問題＞
「学び」のある問題づくり
＝科学者適性等のレディネス

2300字程度の課題文を
提示

問 1

この課題文にある内容と合致するものを下記よりすべて選び、それぞれの解答欄に番号を書きなさい。

(配点率 8%)

<A群>

- ① ゴリラ は、人間 であるための 十分 条件である。
- ② ゴリラ は、オランウータン であるための 必要 条件である。
- ③ チンパンジー は、類人猿 であるための 十分 条件である。

抜 粋

<B群>

- ① ゴリラ と サル の差は、人間 と チンパンジー の差より 大きい。
- ② チンパンジー と オランウータン の差は、類人猿 と ゴリラ の差より 小さい。
- ③ サル と オランウータン の差は、チンパンジー と 類人猿 の差より 大きい。
- ④ 人間 と サル の差は、類人猿 と ゴリラ の差より 小さい。

文意の的確な理解、正確さなど、
筆者の主張と文脈をきちんと捉えられるかをみる問題

問3

「サル化している人間社会」には、どのような事例が考えられますか。具体的な事例を一つあげ、なぜ「サル化している」と考えられるかを説明しなさい。次に、その事例に対して「サル化」を防ぐために考えられる対応策を述べなさい。これら合わせて 600 字以内で記入しなさい。
(配点率 40%)

文章読解力、文章表現能力(論理構築力・分析力を含めた)、創造力、学びに対して向き合う姿勢(気付きや意欲)、価値観、感性等、適性をみる問題



最終スクーリング(課程・系別)

課題提示

→ グループワーク

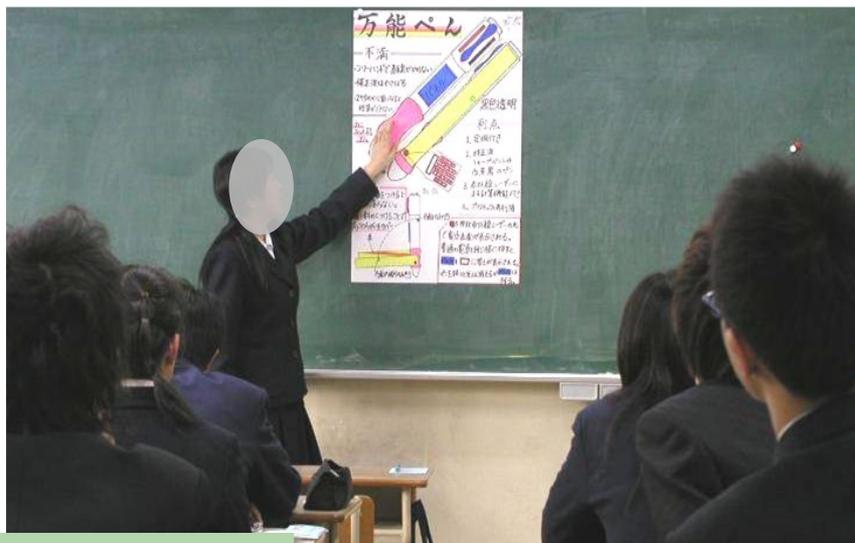


思考力・判断力・表現力等

主体性を持って協働して学ぶ態度

課題提示

→ プレゼンテーション・ディスカッション



受験勉強に動機づけられた狭い学力による入試の課題
→ 日常の教育現場で行われている主体的学習スキル・能力を見る
初等・中等教育制度に寄与する大学入試手法を目指す



ダビンチ入試の特徴

PISAからの示唆:「問題が難しくなればなるほど、暗記学習は有効ではない」

コントロール戦略

対応戦略型学習法

→ 緻密な学習目標を立て、その知識獲得に向けて学ぶ

エラボレーション戦略

知識を合成し、新たなものを生み出す

→ 以前に学んだ知識に新しい知識をつなげて新しいものを生み出す



知識の深い理解(暗記ではない) → 知識の取捨選択(状況判断・思考)



ダビンチ入試の成果

◆ダビンチAO入試合格生の特徴

★合格直後のプレースメントテスト経年比較

開始後14年間で英語は、+12点、数学は+15点上昇している

★→前期日程・後期日程の合格者と進学後の成績と比較して、

①入試類別の優劣なし

②ダビンチ入試合格者の方が単位取得数が多く、中途退学予備軍の発生率が約半分

③一部の課程は、単位取得だけではなく、成績も常に高い

★1年後期の成績によるドロップアウト予備軍対象者

ダビンチ(AO)入試合格生:2.2% 一般入試合格生:4.8%

ダビンチ(AO)入試合格者のほうが少ない

★ダビンチ入試合格者の学習行動特性

自立的学習姿勢ができています

調査研究に関わる手法(協同的問題解決・表現技法・プレゼンテーション)の経験値が高い

★ダビンチ入試合格者の学習観・進路観

高学歴・お金もうけ・一流になりたいという項目へのこだわりが低い

社会貢献をする意欲が高い

自己肯定・積極性といった主体的な態度と周囲との協調性に対する自己認識が高い
すでに将来ビジョンを達成するために行動を起しているものが多い



ダビンチ入試の成果

スクーリングで印象に残ったこと

- ・大学生になれば、このような形で授業を受けるのかと、大学生になった気分で先生の話に耳を傾けていました。
- ・まだ知らなかった事を教えられ、それに関する資料を渡されて問題を解くとき、試験中ずっとワクワクして楽しかったことが印象に残ってます。
- ・講義の内容も高校では習わないもので、もっと聞いていたいと思いました。
- ・高校で学習してきたことを確認するとともに、大学で習うような内容で、思考力や理解力が問われているのが感じられた。また、実際に入學したように感じられ、楽しく感じました。講義で大学の授業の雰囲気を一足早く体感できたことはいい経験だったと思う。
- ・実際に講義を受けて課題に挑むというスタイルが、印象深いです。合格してもいないのに講義を聞ける事が、とても嬉しかったです。
- ・大学の講義がとても興味深く、試験であるという緊張感が和らいだことです。高校などの授業より長い時間の講義であったのにも関わらず、すぐ時間が経ったように感じ、もっと詳しく知りたいと思ったほどでした。



「接続」を同じ「育てる」という言葉で表現しているが……

ダビンチ入試が目指すのは、

「選抜」入試から、「教育」入試への変貌

入試も「教育」であるべき。

これまでのような「大学合格」の手段としての
試験に動機づけられた勉強からの脱却を狙う。



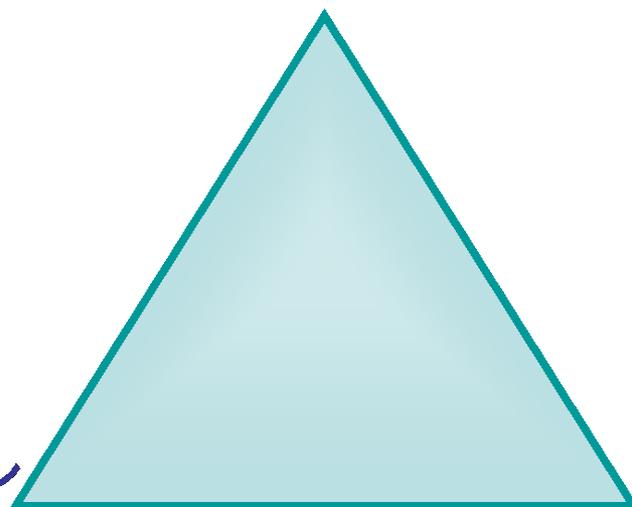
■本格的な大学教育がはじまるまで(初年次教育で)身につけたい要素

大学生活への適応

Adaptation into university community

基礎的学習スキル

Basic study skills



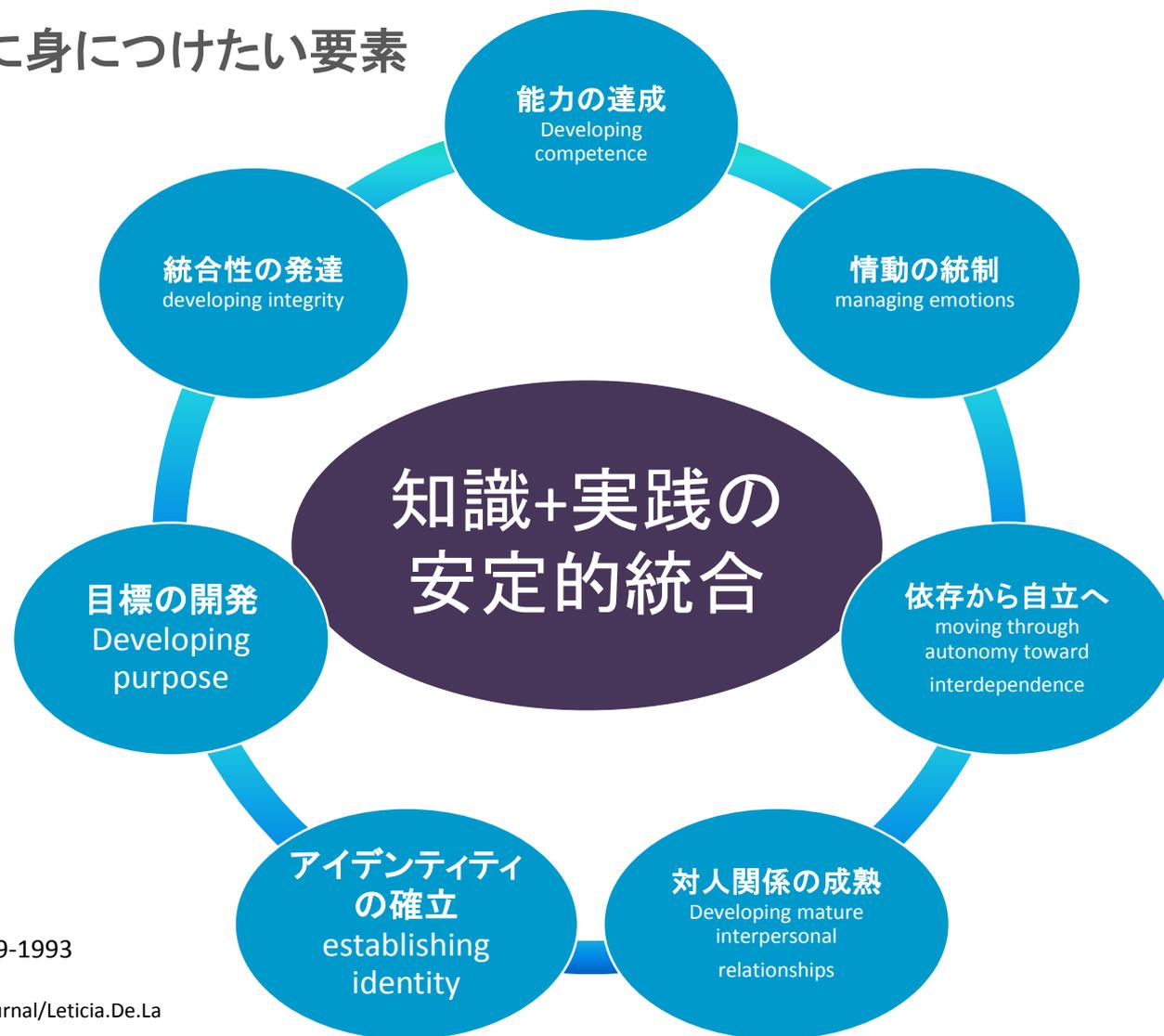
人格の形成

Personal growth



ダビンチ入試における教育接続の視点

■大学卒業までに身につけたい要素



Chickering's Seven Vectors 1969-1993

<http://www.depts.ttu.edu/mcnair/journal/Leticia.De.Larrosa.pdf>



ダビンチ入試における教育接続の視点

■高校から大学へのスムーズな移行

高校生の接続教育

- ☆高校と大学での学びの違いを認識させ、
- ☆自立した学習者への変身を促し、
- ☆学生のアカデミック志向を満足させ、
- ☆スムーズな大学移行ができる

1. 高校と大学の学びの違いを伝える
2. 継続的な学習スタイルが確立するよう支援する
3. 大学時代の学習目標を持たせる
4. 大学生活に希望を持たせる

- ・何をやりたいのかわからない新入生が多い
- ・受身の姿勢の新入生が多い
- ・自己コントロールができず、学習を放棄する新入生が少なくない など

大学生の初年次教育

- ☆中退率を下げ
- ☆大学の帰属意識を生み、
- ☆学生のアカデミック志向を満足させ、
- ☆教育効果を高める

1. 大学のミッション、教育目標を伝える
2. 自分の大学に誇りを持たせる
3. 大学時代の学習目標を持たせる
4. 自分の人生に希望を持たせる

- ・大学教育を受ける目的がない学生が多い
- ・最初の1年でやる気をなくす学生が多い
- ・こんなはずじゃなかったと傷ついている学生が少なくない など



ダビンチ カレッジ・レディネスプログラム

センター
試験
免除

個別学
力試験
免除

丁寧かつ
総合的・
多面的な
選抜

高大トランジション
カレッジ・レディ
ネスプログラム

先輩学生や仲間と一緒に学ぶ。



GOAL

生徒から学生への
意識変革を目指す！

開設当初の入学前教育の目的

1. 入学前の学習の継続を図ると共に大学教育に結びつける。
2. 入学後意欲的に学習に取り組むことができるよう学習指導、動機付け、激励などを行う。
3. 高校との連携を図り、高校の学習指導を側面支援する。



ダビンチ カレッジ・レディネスプログラム

オリエンテーション

入学までの
過ごし方

プレースメント
テスト

科目強化学習

添削課題

学習相談・体験会

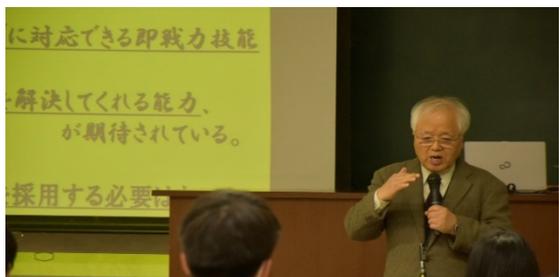
トランジション教育

先取り講義

ジェネリックスキル
開発&グローバル

GOAL:「高校生が大学生になる」

理工学基礎講座



数学の講師による特別個別指導↓



グループワーク実践



文章表現の補講↓



国際交流会





ダビンチ カレッジ・レディネスプログラム

◆早期合格者の対応→大学進学レディネス育成

- 高校偏差値と大学の学習成果(大学成績)…相関は認められない
- プレースメントテストと大学の学習成果(大学成績)…弱い相関
- 入学前学習の課題提出回数と大学の学習成果(大学成績)…有意な相関関係

表 高校偏差値・プレースメントテスト結果・入学前課題提出数および入学後の単位取得数とテスト成績との関係

pearsonの相関係数

n=188

	高校偏差値	PT結果	課題提出数	単位取得数	成績平均点
高校偏差値	1	.384**	-.045	.024	-.007
PT結果		1	.167*	.225**	.203**
課題提出数			1	.306**	.251**
単位取得数				1	.519**
成績平均点					1

山本以和子(2011)

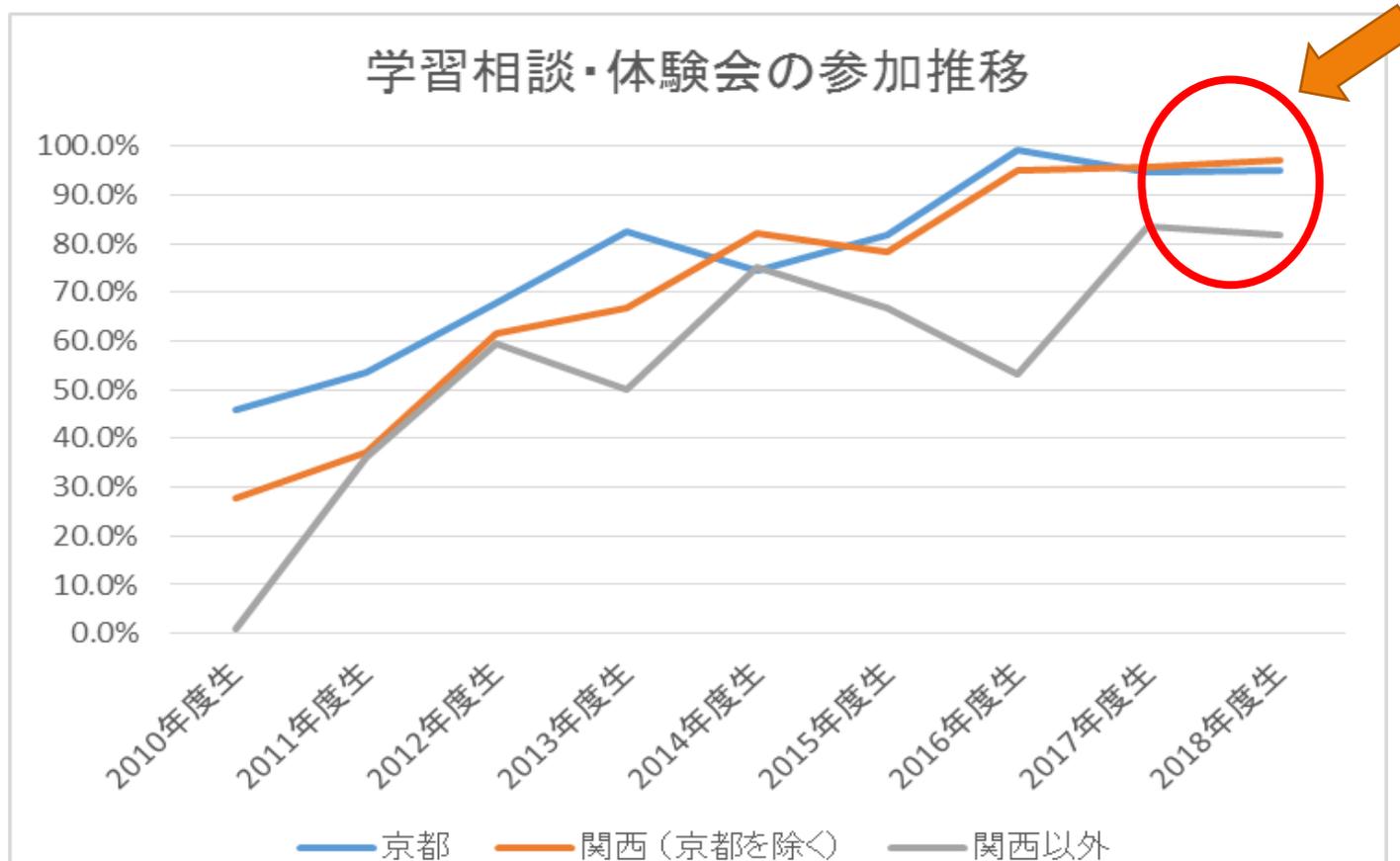


ダビンチ カレッジ・レディネスプログラム

◆早期合格者の対応→大学進学レディネス育成

本学で行うスクーリングは、参加率が上昇
2010年度30%以上→2016年度から90%以上
2016年度から関西圏在住者は、95%以上の参加率

学習相談・体験会の参加推移



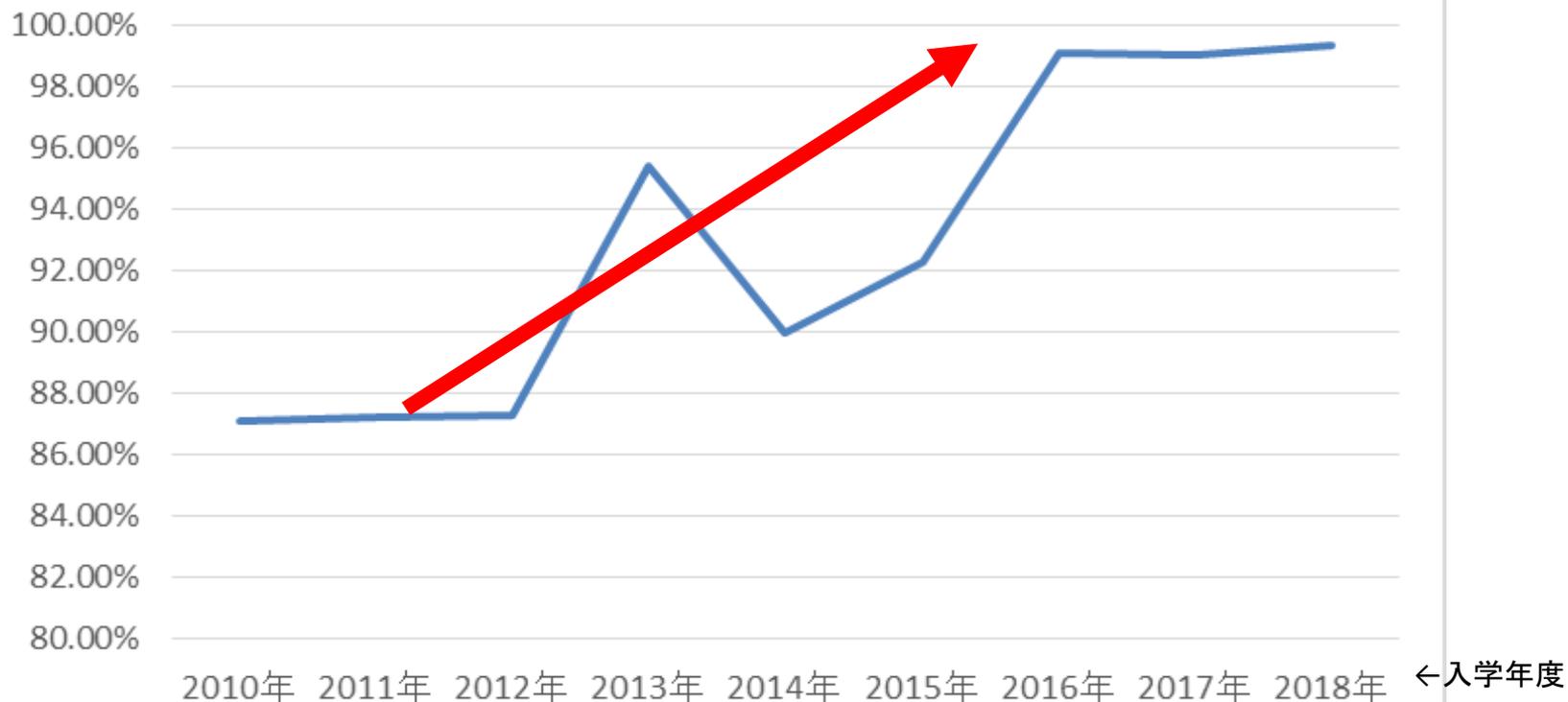


ダビンチ カレッジ・レディネスプログラム

◆早期合格者の対応→大学進学レディネス育成

全4科目×3回提出の入学前学習の添削課題
その提出率は、2010年度から上昇し、
現在ではほぼ100%の提出率となっている

科目強化学習添削課題 提出率





ダビンチ カレッジ・レディネスプログラム

◆早期合格者の対応→大学進学レディネス育成

入学前教育の役立ち度

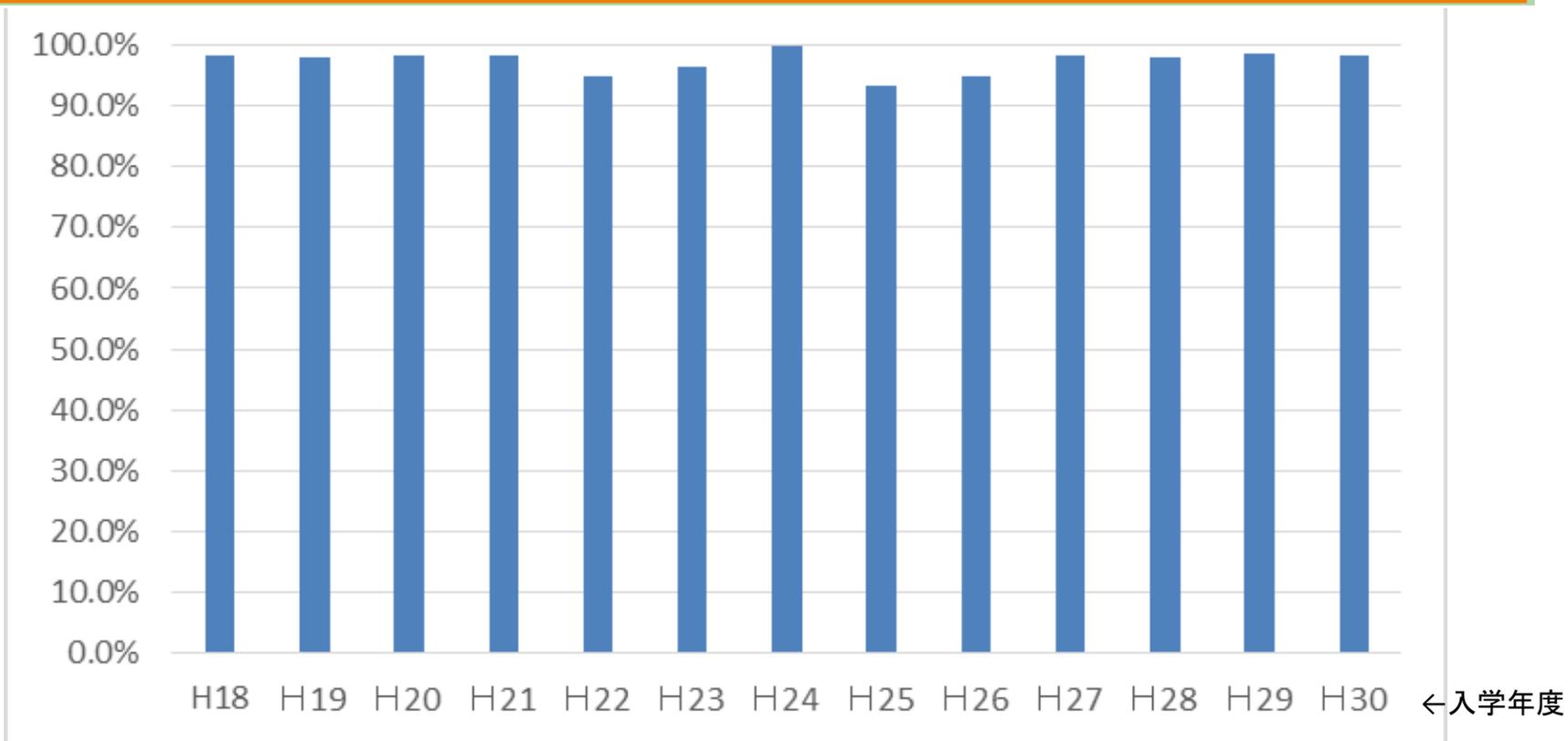
「今後も行ったほうがいい」と回答した割合は90%以上

①自分の学習プランができた

②学習相談会で課題に取り組んで、苦手克服

③大学生活の不安解消

④モチベーション向上



入学前教育を「今後も行ったほうがいい」と回答した割合

ダビンチプログラム

多様な形式の入試で才能を発見

- ・より分野に則った選抜方法
- ・より多面的な入試
- ・判定要素のさらなる検討
- ・高校教育を基とした大学教育との
レリバンスを意識した問題
(教育接続を意識した問題作成)

ダビンチ入試(一般選抜)

ダビンチ入試(地域創生Tech Program・地域)

ダビンチ入試(地域創生Tech Program・一般)

ダビンチ入試(グローバル選抜)

などなど...

積極的なカレッジ・レディネス育成活動

- ・対話的な学びから
深い主体的な学びへの姿勢確立
- ・基礎的な学習スキルの醸成
- ・学習観・人格の形成
- ・社会性・国際性・実用性等の視野の
拡大に伴う「学び」の価値観の創出

大学先取り「理工学基礎」講座設置

通信添削による入学前学習(リメディアル)

グローバル化。英語力アップコース

PBL グループワーク講座

インターンシップコース

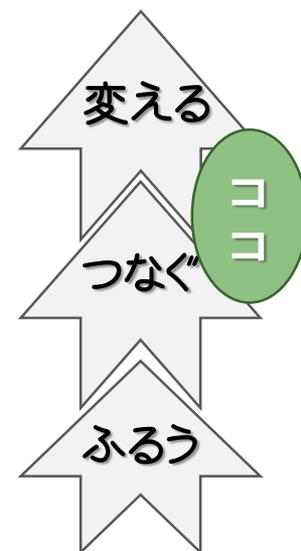
 高大接続ではなく、高大移行(トランジション)を達成するための入試改革

ダビンチ入試の進化

◆現在のダビンチ入試+ダビンチカレッジレディネスプログラムのポジション

ダビンチ入試の成果

1. 合格者の学力水準が年々上昇している。
2. 入学後の学習パフォーマンスに成果が認められる。
3. 入学前教育では、学習姿勢と学習意欲の維持が図られている。
4. 「教育的入試」機能を持っている。
5. 入学後の学習生活のイメージ醸成が図られている。



これからのダビンチプログラム 「才能を発見し、育てる入試」

1. これまでの学習体験とこれからの学習プランのストーリーを
つなぐことで、主体性が生まれる入試
2. 能力や才能を多面的に注目し、成長潜在力を発見する入試
3. これまで培ってきた知識と能力の融合を図り、さらに現実社会の
解決と未来社会の構築の面白さを実感させる入試と接続教育
4. それらを通して、テックリーダーになるための構えが育まれる
入試と接続教育

ご清聴ありがとうございました。



K Y O T O
I N S T I T U T E O F
T E C H N O L O G Y

ご質問、お問い合わせ : ewhay@kit.ac.jp

関係詳細は、大学入試研究ジャーナル №28
「ダビンチプログラムの高大トランジション面における検証 —入試と入学前教育の機能設計に着目して—」